

平成27年大展示会 MERA EXPO に出展

宮崎大学農学部は、米良電機産業株式会社（宮崎市）が平成二十七年六月二十七日（土）と二十八日（日）の両日にシーガイアコンベンションセンターサミットホールで開催する平成二十七年大展示会 MERA EXPO において、農学部の教員が現在おこなっている地域との連携研究の成果を発表します。別冊ニュースレターでは、出展を予定している主な展示内容を紹介します。

宮崎大学農学部の地域連携の取り組みを紹介

みやざきサクラマスの生産と消費

海洋生物環境科学科
サクラマス研究グループ

最近、私たちは、冬に海水を利用し、ヤマメを海で養殖する技術を確認しました。冬の間、海水で育まれたヤマメは大きく成長し、サクラが咲く頃には体重が10倍近くに増え、サクラマスの姿になります。現在、海で育んだ巨大ヤマメを「みやざきサクラマス」と名付け、宮崎の新しい地域ブランド魚として売り出しています。また、みやざきサクラマスは、春以降も五ヶ瀬水系で育むことができ、秋には採卵もできます。



宮崎県のすばらしきサンゴ

海洋生物環境科学科 深見 裕伸 准教授

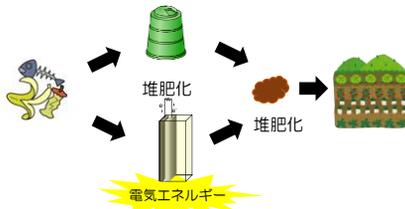
宮崎県には沖縄にも負けないくらい多くのサンゴが生息しています。しかし、まだ一般にはその存在が知られていません。しかも、環境の変化やオニヒトデによって現在、その数が減っています。そこで、われわれは、宮崎のサンゴの保全と有効活用を目的として、調査や講演などの活動を行っています。



微生物燃料電池で廃棄物を燃料に変換

応用生物科学科 井上 謙吾 准教授

宮崎県は全国的にも有名な畜産県です。牛と鶏を中心として多くの家畜が飼育されており、それに伴って多くの畜産廃棄物が発生します。その多くは堆肥として利用されていますが、微生物燃料電池を使えば、その堆肥化の過程で発電ができます。私たちの研究室では、牛糞を燃料とした発電を実用化するために、牛糞尿から電気を作るために最適な微生物燃料電池を開発しています。



機能性ブルーベリー葉を作る

ブルーベリー葉研究グループ

ラビットアイブルーベリーという北アメリカ原産の植物の葉にたくさんの生理機能があることが明らかになってきました。宮崎大学と宮崎県の研究グループは、10年以上をかけて、効率的な栽培方法を開発してきました。現在、宮崎県内で約300aの専用圃場で生産が行われています。



「農」の力で地域と手をつなぐ宮崎大学農学部の挑戦

産業動物・食農教育への取り組み

農学部附属フィールド科学教育センター

大学独自ブランド「宮崎大学 Milk」・「宮崎大学 Beef」の生産・販売を行う他、各種タイアップ製品（レトルト食品・菓子類等）で6次産業化に取り組んでいます。全国の学生教育・社会人卒後教育・講習会開催等の他、JICA研修等の国際貢献、地域貢献のための体験実習・公開講座等を幅広く行っています。



早期水稲後作を利用した晩期大豆生産 西都市の取り組み

畜産草地科学科 明石 良 教授

宮崎大学では数年前から晩期ダイズの試験栽培を行っています。収穫した大豆は、豆腐、豆乳、味噌などに試験加工したところ、特に豆乳は大豆特有のえぐみも無く、また、この味噌で作製した郷土料理の「冷や汁」は大変美味しいものです。西都市では宮崎大学と共同で、この新たな農産物「大豆」を広く展開し、「大豆のまち」としてまちおこしの一環として活用する予定です。近い将来、西都（宮崎）ブランドの大豆が、安心安全な国産大豆として、家庭の食卓を賑やかにしてくれることを期待します。



農学部の地域との詳細な取り組みについては、以下のURLで紹介しています。

<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/community/>



<問い合わせ先>
宮崎大学農学部地域連携推進室
〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1
TEL&FAX: 0985-58-7150